

第1回 杉並区立杉並第一小学校改築・複合化検討懇談会会議録(要旨)

会議名	第1回杉並区立杉並第一小学校改築・複合化検討懇談会
日時	平成27年7月28日(火) 午後3時～午後5時
場所	産業商工会館展示室
出席者	懇談会委員21名(欠席2名)、事務局及び関係職員9名
傍聴者	4名
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 配布資料の確認、懇談会の運営について 4 出席者紹介 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員自己紹介 (2) 事務局自己紹介 5 進行役の選任 6 資料説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 杉並第一小学校の概要・特色等について (2) 改築・複合化計画の概要について (3) 改築・複合化における基本的な考え方 (4) 関連公共施設(阿佐谷地域区民センター・産業商工会館)の現状 (5) 事業工程(案)及び懇談会スケジュール(案)について 7 質疑応答、意見交換等 8 事務局からの連絡事項 9 閉会
資料	資料1 杉並区立杉並第一小学校改築・複合化検討懇談会運営要綱 資料2 杉並区立杉並第一小学校改築・複合化検討懇談会委員名簿及び事務局名簿 資料3 第1回説明資料 資料4 杉並第一小学校 平成26年度学校要覧 ほか

学校整備担当部長	<p>私は、杉並区教育委員会事務局学校整備担当部長の大竹と申します。</p> <p>本日は、「杉並区立杉並第一小学校改築・複合化検討懇談会」にご出席いただき、また、懇談会委員を快くお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>杉並第一小学校は、明治8年の開校から数多くの卒業生を輩出し、今年で創立140周年を迎える歴史と伝統がある学校です。</p> <p>近年では、平成20年4月にコミュニティ・スクールの指定を受け、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進めるとともに、地域の皆様のご協力による「朝先生」や児童の放課後の居場所「すぎっ子くらぶ」などに代表されるとおり、学校支援本部「杉プラン」によって、学校・地域・保護者が一体となった学校支援の基盤に支えられ、特色ある教育活動を展開しております。</p>
----------	--

	<p>その取組は、全国的にも評価され、文部科学省や東京都においても、地域社会の教育力を学校教育活動に積極的に生かしている先進的な取組事例として、数多く紹介されているところです。</p> <p>学校施設につきましては、築後 57 年を経過しており、老朽化に伴う改築時期を迎えております。その改築に合わせて、阿佐谷地域にあります阿佐谷地域区民センターと産業商工会館の集会関連機能を集約しながら、学校施設と他の公共施設の複合化を図るといふ、杉並区においてもこれまで例のない施設を、現在の杉並第一小学校の校地に整備するという計画事業を進めていくこととなります。</p> <p>本懇談会委員として、お集まりいただきました地域の皆様、学校関係者の皆様、そして学識経験者の方々から様々なご意見をいただき、今年度は学校教育環境の充実を最優先に考えつつ、より良い施設づくりを行っていくための基本構想・基本計画を取りまとめ、その内容を踏まえ、来年度は施設の基本設計を実施していくこととしていますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>配布資料の確認から進行役の選任までの間の進行は、学校整備課長が行います。</p>
<p>学校整備課長</p>	<p>学校整備課長の喜多川と申します。</p> <p>進行役を選任するまでの間、会の進行を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>次に、「懇談会の運営について」でございますが、本懇談会は、杉並第一小学校の改築に伴う教育施設整備、併せて整備いたします複合施設整備における基本的な方針に関することや新たな施設の基本設計に反映する内容について、懇談会においてご意見をお伺いし、より良い施設づくりに向けて、区が責任を持ってとりまとめていきます。</p> <p>懇談会につきましては、来年度、施設の基本設計作業が終了するまでの約 2 年間、ご協力をいただきたいと思います。</p> <p>今年度（平成 27 年度）は、基本構想・基本計画の策定、平成 28 年度は、施設の基本設計について、ご意見をお伺いしていきたいと思っております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、懇談会を進めるにあたっての基本的な事項となりますが、この懇談会は、原則公開となります。また、本日も傍聴の方がいらっしゃると思いますが、懇談会を傍聴したいとご希望される方がいらっしゃる場合は、基本的に認めることとなっております。</p> <p>また、会議録についても、原則公開となります。会議の記録のため、録音・撮影をさせていただくことをご了承くださいますようお願いいたします。</p> <p>なお、会議録については、発言者の氏名は伏せた形での記録とさせていただきます。</p>

	<p>本日、高橋（治）委員、星野委員が欠席ということでご連絡をいただいておりますが、本日は第1回目の懇談会ですので、委員の皆様にお一人ずつ簡単な自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>（各委員の自己紹介）</p> <p>引き続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>（事務局職員自己紹介）</p> <p>本懇談会は、学校関係者、地域の町会・商店街の代表、学識経験者など、様々な方面から委員としてお集まりいただいております。</p> <p>議事の円滑な司会、進行を担う役割として、進行役を選任させていただきたく存じます。</p> <p>杉並第一小学校校長の鈴木委員に進行役をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>（拍手）</p> <p>それでは、鈴木委員、前のお席へ移動願います。ここからは鈴木委員に進行役をお願いいたします。</p>
進行役	<p>改めまして、こんにちは。ただいまご紹介いただきました杉並第一小学校校長の鈴木でございます。このたび進行役を務めさせていただきます。議事が円滑に進みますようにご協力いただきたいと思います。</p> <p>それでは、次第に従いまして進行させていただきます。</p> <p>「資料説明」ということで、事務局からご説明をお願いします。</p>
教育施設計画 推進担当係長	<p>（「第1回説明資料」に基づき事務局から説明）</p>
進行役	<p>私の方から杉並第一小学校の概要ということで、本日お配りしたA4資料をご説明します。後半は、副校長の方から、学校要覧等を使って説明いたしますので、よろしく願います。</p> <p>まず概要ですけれど、明治8年創立で今年140周年を迎えます。現在は、児童数424名・15学級でございますけれども、昭和30年代までは、児童数1,000名を超える大規模校でした。一番ピーク時では、昭和9、10年頃ですけれど、約2,000名近い児童数だったと伺っております。それから、昭和を経て平成にかけて児童数の減少という傾向が出てきました。それは、学区域の中の児童数が減ってきたということもあるのですが、学校の規模というのはだんだん小規模になっていくと、保護者の方も複数学級ある学校がよいということで、他に移ってしまう傾向があります。ですから、児童数が急速に減少していく歯止めになるものとしては、やはり学校の意欲だけでは足りない、地域の取り組みですとか、あるいは行政からの取り組みがあって、回復することがあります。一般的には、急速に児童数が減ってくると減少を止めることが難しいというのが過去の経験から感じるところです。</p> <p>A4資料の中に棒グラフで示したものが、平成になってからの児童数の推移なので、見ていただければと思います。昭和30年代から、だんだん児童数が</p>

減ってきました、平成元年を迎えた時には450名規模の学校で、ちょうど今の児童数と同じくらいで15学級ほどだと思っておりますが、そこから、学区域の中の児童数が減ってきたということがあります。

平成13、14年を下降のピークに、また、まさにV字の回復をしていきます。ちょうど平成13年に209名だったのですが、次の年の平成14年度から杉並区は学校希望制度を導入しまして、学校の特色をしっかりと出し、外に発信しながら選ばれる学校を作れということで、教育委員会から私たち管理職は示唆を受け、特色ある豊かな学校教育をすることに努めてまいりました。学校の努力だけでは達成できないところもあるのですが、平成14年度に学校教育コーディネーター制度というものがありまして、杉並区内に4名の学校教育コーディネーターが配置されて、学校と外の教育機関をつなぐような役割の方を配置いただきました。それらの方と連携をしながら、学校環境を豊かにし、特色ある学校の教育活動を創造していくということが私たち管理職の使命として、取り組んできました。

それを受けて、平成16年度には、学校教育コーディネーターをされていた伴野委員が、「すぎっ子くらぶ」という文部科学省の政策を受けて、学校内に放課後の居場所づくりをされました。それが平成16年度です。その後、2、3年遅れて、学校支援本部といって学校を支援する組織なのですが、今は杉並区内全部の学校に学校支援本部が設置されて、学校の教育活動の支援をしているわけですが、杉並区ではいち早く平成19年度の段階で、学校支援本部が設置されまして、まさに学校支援本部が学校の研究活動とリンクしまして、「朝先生」という新たな仕組みを立ち上げました。

このように、この頃から、学校希望制度の導入、「すぎっ子くらぶ」の開設、学校支援本部の設置ということが、まさに児童数増加の追い風になりまして、このようなグラフになったと私は捉えております。その過程で、平成20年度にはコミュニティ・スクールの指定ということで、地域運営学校、学校運営協議会が校長の経営方針を承認し支持するような形の、地域としての学校づくりが新たに立ち上がってまいりました。そして、今年度で地域運営学校8年目となりますけれども、それがまさに児童数の増加のラインに沿ってきていると思っております。

平成6、7年なのですが、社会の変化が急速に進んでいく中で、学校は学校の枠組みだけでは社会の変化に対応できる子どもを育てられないということから、学校を開き、急速に変化する社会に対応して、自ら考え自ら主体的に行動できるような子どもたちを育てていかなければならないということで、教育改革が進められました。その中で、学校を開き、学校教育を開いていくことが喫緊の課題だということで新聞報道などで取り上げられました。

その頃、開かれた学校づくり・特色ある学校づくりをどの学校でも進めてきたわけですが、一般に学校の中だけで行なっていると、やはり学校だけで出来ることですから、積極的に情報を発信するとか、学校公開で地域の皆様に見ていただくとか、あるいは、学校が持つ教育資源の活用をどんどん進めな

	<p>がら発信していくというところまででしかなかったのです。それだけでは、なかなか学校が開かれない。今もまだそういう傾向があるところがありますが、地域や社会の教育資源を学校の教育活動の中に取り込んでいくことはなかなか難しい状況でした。そこで、本校の場合には、平成 14 年度からの学校教育コーディネーターが配置された頃から保護者と地域が連携した学校支援の組織化が急速に進んでまいりました。そういう中で、今の杉並第一小学校があると考えていただければと思います。</p> <p>そこで、地域の学校支援の組織化の中で、学校の教育活動への参加・参画というのが大きな課題となってくるわけですが、一般的には、参加・参画という中で挙げさせていただきました上の 3 つくらいまでは、どこの学校でも一般的に出来ているところです。地域の方があいさつ運動に参加していただいたり、学校の生徒の登下校の見守りを手伝ってくださったり、あるいは、図書ボランティア、学校美化ボランティアという活動に参加くださったり、そういう支援はたくさん行なわれています。また、授業支援ということで、生活科や昔遊び、地域探検などの講師をしてくださったり、時には中心的な役割をしてくださるような学校教育への参加・参画があるのですが、本校の場合にはそれより一歩進めて、まさに協働、同じ目標をもって一緒に働くというところまで含めていると私は捉えています。学習プログラムの開発などにまで、今、進んでいるような状況です。</p> <p>このようなところから、杉並第一小学校独自の豊かな教育活動が創出されて、今の杉並第一小学校があると考えています。本区の教育長は、こんな話をされます。校長の限界を学校の限界にするなということです。それは、学校を閉じた現場の中で、学校の中だけでやっていると、地域にある、また社会にある新しい教育資源を学校の中に取り込むことが難しいと思います。ですから、校長が限界にならないように、校長が学校を開き、教育を開くことが大事であると言われておりますので、まさに、本校の場合は、学校支援本部、学校運営協議会の方たちと共に進めている状況だと思っております。</p> <p>そして、最後に挙げさせていただきましたけれど、本校に関わる方々が文部科学大臣表彰を平成 19 年度から 3 度いただいています。平成 19 年度には放課後居場所づくりということで地域と連携した子ども居場所づくり、平成 21 年度には、放課後子ども教室の推進で中心的な役割を果たした方が表彰されました。平成 24 年度には、優れた地域による学校支援活動、まさに、今行なわれている学校支援本部の体制に対して文部科学大臣表彰をいただいています。</p> <p>そんな中にある学校だということを前段でご理解いただければと思います、ご説明させていただきました。</p> <p>この後、副校長の方から、本日お配りさせていただいた資料を基に、本校の特色ある教育活動や教育目標についてご説明させていただきます。</p>
委員	<p>お手元にある資料を基に、本校の特色ある教育活動についてお話をさせていただきます。</p> <p>本校の教育活動ということで考えた時に、キーワードは、「かかわり」と「つ</p>

ながり」のこの2つではないかなと考えております。具体的には、色々な活動をしているのですが、一つは、「朝先生」や学校支援本部など地域の方々に学校に来ていただいて関わっていただいて子どもたちを育てていくということがあります。そして、学校は学校だけではなくて、地域に出向いて行って、そこで街の人たちとのかかわりをもって行なっている活動もあります。そして、本校では特色として、音楽の方で、ジュニアバンドがありまして、あさがや区民センターまつりや、ジャズストリートなどにも参加させていただいています。では、少し写真なども見ていただきながら、確認をさせていただければと思います。

まず、「朝先生」ですが、PTAの作りました「杉友（さんゆう）」というのがありますが、こちらの1枚目・2枚目を見てください。本校には、15学級ありますけれど、そのクラス担当の地域の方、「朝先生」がいらっしゃいます。この「朝先生」は、毎週火曜日と金曜日に我々教員がミーティングをしている最中に各教室に来ていただいて、百人一首をするだとか、計算の補習を見ていただくなどをしていただいております。朝から関わっていただくことによって、子どもたちは日々地域の方と触れ合う機会がございます。こういったことで、地域の方に支えられているということがございます。

隣のページには、「すぎっ子くらぶ」が載っていますが、学校支援本部の活動です。先ほど校長の方からもありましたが、放課後の居場所づくりの活動で、授業が終わった後も地域とかかわりを持って子どもたちがのびのびと過ごしています。学校支援本部の活動は、学校のみならず、地域の行事などの様々なことも行なっております。特に、神明宮でのキャンドルナイトがございます。こちらは幼稚園、近隣の福祉施設、中学校なども巻き込みまして、阿佐谷の地域行事としても根付いてきています。こちらの中心になっているのが、本校の学校支援本部ということです。このように、地域の方から学校の方に関わっていただいて、本校の教育活動は成り立っています。

そして逆に外向いていくものとしては、阿佐谷を朝顔でいっぱいにしようと、小学校2年生が育てた朝顔を近隣の方や、幼稚園に配布をしている活動や、衣料回収、先日のネパールの募金なども関わっております。

もう一つ、土曜日授業というものもあるのですが、これは土曜日にただ単に学習を行なっているということではなくて、地域ならではの教育力を活用した学習は出来ないかということで行なったものです。実はこれは昨年度行なった全ての活動です。この中に一覧表があるかと思いますが、年9回の土曜日の中で、各学年が地域の方や専門家をお呼びして、学校では出来ないような専門に触れる授業などをさせていただいたものでございます。中を見ていただきますと、日本の伝統芸能を学ぼうということで、能の先生に来ていただいて、謡いの体験をしたり、それから、おもしろ算数といって、実際に塾講師をされている専門の方に発展的な学習をしていただいたこともあります。それから野鳥と友達になろうというのは、実際に身近な自然を感じようということで、最終的には善福寺川緑地まで行きまして、野鳥観察をするようなプログラムも行なっ

	<p>ております。また、河北病院さんには大変お世話になっておりまして、年間4回の「命の授業」というものをしていただいております。緩和ケアの人たちや助産師さん、又はリハビリ科の方に来ていただいて、自分たちの生き方はどうなのかということ問いかけるような学習もしています。そのほか、書道なども行なっておりまして、土曜日ならではの教育活動を本校が苦心しながら作ったものがこちらでございます。</p> <p>このような活動をしている中で、一つ困ったことは、なかなか学年で集まる場所がないということです。体育館と視聴覚室などはあるのですが、学年一緒になって入る場所がないというようなこともありまして、時には河北病院さんにて学習する機会を作ったり、神明宮さんのお部屋をお借りするなど、地域にある施設をお借りするなどして進めているところでございます。</p> <p>最後に、「学校運営協議会だより」というものがありまして、その中で、本校の複合化に伴いまして、どんな学校がいいだろうということをざっくばらんに保護者・地域の方・学校運営協議会の方を含めまして、こんなものが出来たらいいねというものをグループで話し合っただとまとめたものがこの資料になります。</p> <p>まずうちの学校の周りには自然がいっぱいあります。都会でありながら自然がいっぱいであるというところは東京では珍しいと思います。ぜひこの自然をうまく使いながら、子どもたちに自然と触れ合わせたいなという意見が出ました。</p> <p>それから、学習につきましては、先ほど言いました土曜授業など、子どもたちの知的好奇心を育むようなそんな活動をしたという事で、学習スペースや、これはないものねだりですけど、プラネタリウムや美術館などもあったらいいねというような夢のような話も出ました。</p> <p>また、体育の方は、本校は狭い敷地なので、体力の向上を図るというのが大きな課題となっています。出来れば遊びが出来るような場所がほしいとか、体を動かせるような狭いスペースでも出来るような、そんな工夫が出来たらいいなということが保護者の方からも出ました。また、地域とのかかわりということで、気軽にベンチに座って話が出来るところ、または、地域の人たちに杉並区のよさを伝えられるそんなスペースがあったらいいなという話も出ています。</p> <p>最後に、先ほども話がありましたが、駅の近くでございます。杉並区のシンボルタワーになることと思います。河北病院さんも近くにありますが、文化施設としてのホールとかそういった活動も必要かと思っておりますので、そんなことも考えていただき、子どもたちも使わせていただければありがたいなというような意見もでございます。雑駁ですけども、そのような資料の説明とさせていただきます。</p>
<p>教育施設計画 推進担当係長</p>	<p>(引き続き、「第1回説明資料」に基づき事務局から説明)</p>

<p>進行役</p>	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>事務局から、杉並第一小学校の概要・特色及び複合化する2施設の現状や課題、改築・複合化における視点、懇談会や事業工程のスケジュールなどについて説明がありました。</p> <p>本改築・複合化事業について、委員の皆様はそれぞれ様々なイメージをお持ちではないかと思えます。</p> <p>こんな学校をつかっていきたい、学校と複合化する施設はこういう施設にしていきたいなど、なんでも結構ですので、本日は、第1回目ということもあり、委員の皆様全員からご発言をいただきたいと思えます。</p> <p>事務局からの資料説明に対する質問も含めて、1人2分程度で、この改築・複合化事業についてのお考えをお話いただければと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は杉並第一小学校の卒業生ですけれど、自分は昭和32年度卒ということで、入学した時は、日本がまだ戦争に負けて独立してない頃だったと思えます。その当時を振り返りますと、私どものおやじやお袋たちというのは、戦争に負けてシュンとしているだけではなくて、次の世代の子どもたちを育てなくてはいけないという熱気が感じられました。また先生たちにも、次の世代を何とか自分たちで育てなくてはならないという非常に熱心に教育を自分たちのほっぺを叩きながら、教えていたのかなと思っております。ほっぺを叩くというのはいけなかったのかもしれませんが、悪いことをしたらお尻を叩くということが日常的に行なわれておまして、やはり礼儀作法、弱いものをいじめてはいけなくて、そういうしつけも含めて、父母、PTA、そういう人たちと一緒にあって、本当に先生たちが一生懸命やってくれたのかなと思えます。</p> <p>先ほどちょっと触れたみたいに、自分たちが小学校4年の時に二部授業というものがございました。自分たちは午前中で、午後から後輩が入ってくる。1,200～1,300人という多くの児童が、あの小さな校庭にぎっしりと入っているという状況でした。私どものクラスは、卒業する時に58名でした。先生は、一生懸命冷房もない中で、本当に必死になって児童を教えていました。少しでも子どもたちが幸せになれるように、また働いて稼げるように、学問だけでなく、いろんなことを教えていただいたように、今のスライドを見ながら、思い出しておりました。</p> <p>私は店が南にございましたが、生まれたのが北でございまして、姉が先に杉並第一小学校に入っていましたので、姉にくっついて越境で、踏み切りを渡って、杉並第一小学校へ通っていました。思い出しますと、そういう小学校時代を過ごしまして、非常にいい思い出がたくさん残っております。先ほど、地域の人たちと一緒に、いい地域であればいい子どもたちが育つと、そんな言葉がどこかで聞くことがございますけれども、本当に自分もそう思っております。いい地域の中で、いい小学校を再構築するということで、皆さんの知恵をお借りしたいと思っております。よろしくお願ひします。</p>

委員	<p>初回なので、これからの行く末を見守りたいと思いますが、一言だけ、「朝先生」ですとか、「すぎっ子くらぶ」、土曜授業ですとか、このような素敵なせっかく積み上げたものを継続できるように、まずはそのような施設、そういうものを考えられればいいかなと思います。以上です。</p>
委員	<p>全体的なお話を伺いまして、個人的にそんなに違和感がないというイメージが持てました。阿佐谷地域区民センターは、今年でちょうど30周年、今スタッフが29人、事務局の方が6人で、35人で回転しているわけでございます。先ほど、稼働率・利用率はだいたい70%、ただ、私どもの感覚的には、昼間行くといつもいっぱいになっているわけですから、100%に近いのかなとも感じますけれども、ただ、現実には7割から8割ということでした。</p> <p>これから、皆さんと懇談会の中でお話も出来るかと思いますが、第一印象としましては、なるほどという、ただ、一つだけお願いがございまして、得てして議論が進みますと、いろんな複合化ということで、いろんなものをどんどん積み上げていってしまうということがありますから、そこだけは、あまり積み上げていく必要はないのかなと思います。あくまでも教育メインの施設と、地域の皆様へのサービスが出来る諸施設というものを期待をしておりますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>先ほど話がありましたが、当時やはり二部授業、朝出て午前中に帰ってきて、または、午後出てきて2～3時間やって帰ってくるというそんな授業を受けた記憶が残っております。それと、今ある西側校舎ですが、あれが私が在校中に出来た鉄筋なんですね。たしか、小学校4年か5年の時に入った記憶があります。懐かしい思い出もございしますが、それと今お話のあった阿佐谷地域区民センターと産業商工会館、これが一つになって、杉並第一小学校のところに出来ると。</p> <p>私は南口で商売をしていましたので、そこに集まった人たち、その人たちの商圏が向こうに移ってしまうのではないかとちょっと気になったのですが、阿佐谷全体が発展していただければそれでいいかなと、南口は南口で頑張っていればいいかなと、今ふと思っているところです。阿佐谷全体が良くなるように、地域の人たちが良くなるように、小学校を利用する方々が良くなるように、いろんな形でお話合いが進んでいければいいかなと、そう思っております。以上です。</p>
委員	<p>先ほどの説明を聞いていて、すごい情報量で消化不良気味でございます。その中でちょっと思ったことを言いますと、中杉通りに面した杉並第一小学校の敷地というのは、都市計画の3つの用途地域に分かれていまして、そのうち商業地域に容積率が違う2つのエリアがあるということで、それを全部組み合わせても、中杉通り側にかかなり高い建物が建つかもしれないけれど、これは、今小学校の教室が15学級あると、そのほかにも色々と保健室だの理科室など30教室ぐらいをみといたほうがいいと、それに講堂や体育館など色々考えて、その上に、この公共施設が入るの？っていう感じのところなので、やっぱり学校の教育環境が最優先だろうと。</p>

	<p>例えば、杉並第一小学校の改築といった時、私が第一にイメージするのは、運動会などに招待されて行きますが、校庭が狭いんです。せめて今の1.5倍くらいはほしいなというようなところから進めていくと、どう考えても建物のボリュームの方が、相当影響を受けそうだということがある。その辺のすり合わせをかなりやらないといけないと、そのような感想を持ちました。以上です。</p>
委員	<p>私どもの商店街では、今、100店舗くらいありますが、昔は100店舗もないですが、全店に子どもがいました。今は、みんな通ってる方で、店舗を貸してありますから、夜になると誰もそこに泊まってないんですね。だから、雰囲気というのは、全体的に変わって、例えば、パールセンターなんかでもほとんど、あそこに住んでない方が多いので、昔とはまるで感じの違った商店街になりました。</p> <p>それでは、これからどうやって商店街がうまくいくか。商店街も昔ですと、売り出しをやると全店舗で売り出しに参加したんですが、今は商店街でも新しい方はあまり顔を合わせたことがない、どういうオーナーがいるのかも分からないという店舗が多いんですね。これからも、商店をうまくつないでいきたいと思えます。</p>
委員	<p>戦後70年が経ちまして、勤勉で礼儀正しい日本の国というのは、よくぞ敗戦を超えても、今をもって続いているものだと、やっぱりその当時の両親、大人たちがみんな頑張った成果だと思います。日本は、資源のない国だと言われております。やはり教育こそが日本にとっての最大の資源であると思えます。それが反映されるような改築であつたらと思えます。</p> <p>もう一点は、町会での関心事は何といたしても、高円寺・阿佐谷は真っ赤な地図と言われております。災害に当たっては、逃げ場もないという地域でございますので、その辺も、この施設の中に考慮していただければと思えます。</p>
委員	<p>戦後ずっと阿佐谷地域に住んでいますが、中心は杉並第一小学校で、一番いいところにあります。改築・統合化するという計画で、説明を聞きました。やはりあそこに統合化するということが決定されたようですけど、小学校に産業商工会館とか施設が入るということで皆さん言われてますが、やはり資源は教育、一番に考えるべきは子どもの教育ですから。今もあれだけ狭いところであれだけ人気がある。地域の方が先生をなさったり、校長先生、教育委員会が頑張って積み重ねてきました。それをそのまま生かされるような施設という方に、皆さんで考えていただければと思えます。</p> <p>あと一つですね、我々の時代は終わりますけれど、これから20年、30年、阿佐谷の中心になっていく。我々の年代で考えることもあるが、やはりPTAの方々の意見も聞いて、決めていただければと思えます。以上です。</p>
委員	<p>私は、阿佐谷北3丁目に住んでおまして、子どもが中学生の時に阿佐谷に移り住んでまいりましたので、地域の学校にあまり馴染みのない生活を今までしてまいりまして、今日は色々と地域のことが勉強できるのではないかというような気持ちで参りました。お話を頂いた時には、私は、ちょっとそういう委員なんていうのはふさわしくない人間ですと申し上げたのですが、そうい</p>

	<p>う人間が一人くらいはいてもいいのではないかというご判断だったと今、思っております。子どもが小学生の時は、高円寺の杉並第八小学校にお世話になっておりました。中学生になりまして、東原中学校にお世話になりました。今、町会の役で時折、参加させていただくのは、杉並第九小学校でございます。今日のお話を伺って、同じ区立ではあるけれども、近くであっても、この杉並第一小学校と杉並第九小学校では、ずいぶん雰囲気が違うんだなっていうのを感じさせていただいて、今、お話を伺っております。私なんかがお役に立てないと思っておりますが、これから回を重ねる中で、何か私なりの意見が出せるのかどうかと、今、戸惑っております。以上です。</p>
委員	<p>私、建築・インテリアの専門学校で指導している、もう一つの顔があるのですが、建築雑誌に有名建築の小学校の写真が出ていたりして、うわぁいいなあとか、すごい子どもが生き生きしているなというところをよく目にしていたんです。大人の事情というところがあったのですが、やはり小学校を使うのは子どもですので、しかも、6歳から12歳という多感な時期を過ごす大事な施設ですので、やっぱり子どもが使って、すごい楽しかったなあとか、いい思い出がいっぱい出来たなっていうような施設をぜひ作っていただきたい。区の行政の施設をたくさん入れなければいけないんですが、やはり使うのは子どもだということをしっかり頭に入れて、いい施設、それから心に残る施設を作れたらいいんじゃないかなと思います。やはり動線とか、子どもたちが将来も地域のために役立てられるような空間が出来たらいいかなと思います。</p>
委員	<p>複合施設にはなりますが、やはり教育第一ということで出来ていけばいいかなと思います。もう一つは、建物全体が、子どもたちはもちろんですが、地域の方々、それから若い方にもお年寄りにも、どなたにとっても学びの場になってほしいというのが、私の頭の中にある一番の願いかなと思っております。</p>
委員	<p>私は、杉並第一小学校に関わらせていただいて、20年近くなります。小学校、特に公立に関しては、もう建物とか教育ありきではなくてやってまいりました。今の杉並第一小学校の教育を、建物を使って、いかによい教育をしたらいいかということをやってきました。でも、いい機会になりましたので、逆に教育を成せるためには、どういう施設が必要かという機会が来たのかなと、私は嬉しく思っております。</p> <p>杉並区でもいろんな学校が改築しましたが、やっぱりそれは、学校という単位だけのものであってですね、その施設の中でもいかがなものかなと思う施設もいくつかありますが、今回は杉並区で初めて複合化されるわけですから、複合化というものを教育にとって良きものとして、お互い相乗効果がないといけないと思います。私たちが考えていることは、50年先の子どもたちが、この校舎を使っていかに学ぶか、その施設を使って地域のものとして活動するかということを考えなくてはならない。今の時点として語ることはないと思いますので、ぜひとも30年、50年先を考え、見据えて、子どもと地域の発展ということを考えていきたいかなと思います。よろしくお願いします。</p>

委員	<p>先ほどからお話が出ていますが、子どもの支援というか、教育の視点を見据えてという風に思います。後は、複合化ということで、杉並区に全国から目が向けられています、複合化の学校ということで、たぶん色々視線が集まると思いますので、さすが杉並区と言われるものを作っていただきたいなと思っています。ただ、国立競技場のように工期が遅れるということになってはと思いますが、やはりどうせ作るなら駅から見えるわけだし、やはり杉並区の複合化はすごいとそう言ってもらえるようなものをぜひ作っていただきたいと思っています。</p> <p>あとはやはり、複合化というのは、マイナス面も出てくるかと思うのですが、でも、やり方によっては、プラスの面も出てくるのではと思います。この辺は、また学校支援本部長が一生懸命考えてやられると思いますが、ぜひ子どもたちが良かったと思える学校を皆さんと一緒に作らせていただきたいと思っています。</p>
委員	<p>複合化は決まったようですが、どうしても私は、教育施設は教育施設のままの方がいいような気がしています。いずれにしても、この間、耐震工事が終わったばかりで、今度は、先ほどの事業工程によりますと、平成 32 年度末までに建設と言いますと、オリンピックの工期にばっちり重なっています。私がちよっと聞いた話では、建築費用というのは数年前の倍近いらしいですよ。そうすると、そういうことを全然考えなくていいんですかね。そう思うと、羨ましいなと思います。私は、オリンピックが終わって、みんなが下火になったら、何かしようかと思っています。私だったら、工事を待ちます。</p> <p>そして、隣接の西友さんとか河北病院さんとか、地元の地権者、神社・お寺、そういうところと例えば地下を共有して。赤坂日枝神社は近くにマンションが建ったり、商業ビルが建っているんですが、そこは空中権を売ってそういうことがあって、そういう風に、根回しというか時間をかけたほうがいいんじゃないかという気がします。もしピントがずれていたらすみません。私だったら、もっと時間をかけたいと思います。</p>
委員	<p>今日の懇談会に当たって、区から資料をいただきまして今日持ってきましたが、改めて資料を拝見して、校長先生からも先ほど紹介がありましたが、杉並第一小学校の様々な取り組みを紹介されておられて、杉並第一小学校も一度生徒が減った時期がありますけれど、まさにV字回復、これはやはり学校希望制度、区域を超えてでも来たいと思える学校、学校支援本部長が中身がそうだったとお話されましたが、やはりそれを実現したからかなと思います。しかも、それを実現したのは、校長先生はじめ、先生方、それから保護者の方々、それから学校支援本部、それから何と言っても、地域の方々が参加して本当にいい学校を作ろうということで、地域の方々一人一人が参加をして作り上げた結果だと思います。</p> <p>よく聞くのですが、学校支援本部長がこの間はどどこに行ってきた、この間はどどこに行ってきた、という風に、出張で全国を飛び回って、地域に開かれた小学校のあり方を講演されているようです。ひっぱりだこと、これは学校支援本部長がひっぱりだこというよりも、杉並第一小学校がひっぱりだこ</p>

だということなんです。そういう意味で、杉並第一小学校の今が、これからの地域に開かれた小学校、初等教育のあり方としては、たぶん、一つのモデルを提示しているし、それは全国的に注目もされていて、先ほど、学校整備担当部長も文部科学省から注目もされているし、表彰もされているとありました。

さて、その杉並第一小学校が複合施設として建て替えられるんだと、これは間違いなく全国も注目もしていて、あの地域に開かれた初等教育を実現した杉並第一小学校が、どんなコンセプトで、どんな複合施設を作るのかというのは、私はオーバーでなく、全国の教育関係の方々、あるいはまちづくりに関わる方々も、大変注目している施設ではないかなと思います。

学校支援本部長がおっしゃいましたが、今度 56 年ぶりに建て替え、私が小学校にいた時代から既に 60 年近く経ってしまいましたが、やっぱり今度建て替える複合施設は、この先 50 年間に渡って使われるという、50 年先のこの地域の初等教育はどういう教育環境の下で行なわれるのがいいのだろうかという視点で考えるべきだと思いました。

それから、基本的な考え方の具体的なご説明をいただきましたが、私、率直に言って、まだ阿佐谷地域区民センターと産業商工会館と一緒にして、一つの施設にしますという、これはどういうコンセプトに基づいて、この 3 つを一つにするのか、正直言って、まだ、全く腹に落ちていない、理解できていません。それぞれが、建て替えの必要があるし、それぞれ課題を抱えているということとはよく分かります。杉並区のブランドといってもいいかもしれませんが、阿佐谷地域の本当に非常に重要なブランドであるところの杉並第一小学校、あるいは、地域の方と一緒にした教育という建物じゃなくてソフトですね。これを、この後、50 年先も含めて、どう引き継いでいくのかという視点から考えた時に、やっぱり複合施設、こういう状況下ですから、統廃合するか、複合化するかどっちかなと、それは結構かなと思うのですが、やっぱりそういう時には、明快なコンセプト、そのコンセプトを打ち立てるべきではないかなと思います。

以前も学校整備担当部長に学校運営協議会で少しご説明を伺った。今日のご説明で、阿佐谷地域区民センターも産業商工会館も重要な施設だと。私も、渋谷商工会議所の役員をつい 6 月までやっております、渋谷商工会館で会合をやって、やっぱり終わった後、懇親会、立食パーティ、これは当然ビールも出る、お酒も出るような立食パーティを開いておりました。産業商工会館もどういう使い方をするのか。一方で、阿佐谷地域には、町会や商店街のちょっとした集まりをする場所がないんだろうと。そういう需要があるということも当然だと思います。

もう一度申しますけれど、杉並第一小学校、おそらく全国からも注目される複合化の時に、50 年先も見据えたですね、どういうコンセプトかを今一度はつきりさせてはと思います。

一つ質問させてください。この複合化計画の概要で、10 ページの緑の括弧書き、これはどこかで決定をされているんですか。

教育施設計画 推進担当係長	こちら（「杉並区立施設再編整備計画（第一期）・第一次プラン」）が計画化して冊子としたものですが、これが平成 26 年 3 月に区の方で、区立施設再編整備計画というものを策定し、具体的な取り組みとしましては、第一次実施プランというものも合わせて策定したのですが、その中で、今、委員に読み上げていただいた内容も、学校施設の複合化の取り組みということで、計画されている内容ということになります。
委員	計画はいいですけど、これは行政的かというと決定はされているのですか。どこで決定されているのか。
教育施設計画 推進担当係長	議会などに報告をして、最終的には区で決定しています。区の経営会議というものがあるのですが、そこで決定をした計画になります。
委員	それは、基本計画は議会で決定をしているのだと思うんですけど、詳細は区の経営会議で決定したものがここに書かれているのか。
教育施設計画 推進担当係長	今、杉並区には、総合計画や実行計画というものがあるのですが、手続き上は議会に報告をして、最終的には区の経営会議で決定をするということになります。
委員	これくらいの内容の具体的な内容まで、区で報告をして、経営会議で決定をするということか。
教育施設計画 推進担当係長	そうです。
委員	それは何年か。
教育施設計画 推進担当係長	平成 26 年 3 月になります。手続き上は、この計画を作るに当たっては、パブリックコメントというものを実施しまして、区民の皆様から様々なご意見をいただいて、それで必要な修正を図りながら、最終的には区の方で決定をしているということになります。
委員	パブリックコメントも既に求めているということか。
教育施設計画 推進担当係長	はい。
委員	学校運営協議会の会長をしておりますので、杉並第一小学校の教育を第一に考えたいと思っています。ただ、単独で、学校の建物、あるいは、他の複合的な施設を入れて建物を建てるというのではなくて、やっぱり地域全体のあり方というものを考えなければ、こういう建物というのは意味がないのではないかとことなんです。それで、もちろん地域全体ということは、阿佐谷という地域が将来どんな地域になっていくのだろう、私は、専門は医療の質とか、安全、それから医療政策が専門なので、これからの高齢化を考えてみると、本当に高齢者はものすごく増えると思いますが、この資料の中に今、15 学級であるものが、将来 12 学級になる、これは別に規定のものではなくて、今のままでいけば、地域を考えて、競争・選択を除外すればこうなってしまうということなので、それは変えることはいくらでも出来ると思うんです。

	<p>それで、実は今、2人の委員も言われたように、区の計画はあくまで計画であって、何も今すぐに、この建築費の高い時に、それから、もう少し地域全体を考えてみて、考え方はいくらでもあるのではないかと。実は、私は河北医療財団の理事長ですから、私の立場でちょっと説明をさせていただきたいのですが、河北病院の一番古い建物は実は、この杉並第一小学校とほぼ同じ時期に出来ている建物であって、我々は患者さんが入院されているので、なかなか耐震補強が出来ない状況にあります。杉並第一小学校は、耐震補強は平成23年に終わっているのですが、もう少しは余裕がある。我々は実は余裕がないのですが、なかなか病院の建て直しに手が出ない。特に、こういう建築費の高い時には、我々は、社会保険診療報酬という公定価格の中で、建物を建てるということは出来ないんですね。</p> <p>ただ、皆さんご存知のように、我々は1年間で、救急車の搬送件数というのが8,500台あります。8,500台の救急車があの細い路地に入って、河北病院まで来る。これが中杉通りであれば、それより本当ははるかに入りやすいアクセスが確保できるわけでありまして、それから、駅からの距離というのは、中杉通りからの方が、ずっと近いわけですから、そういう意味で、病院の建て直しもこれから真剣に実現していかなければならない時に、単独で、例えば、中杉通りに面しているところに、今の区域であれば小学生が減っていく学校と複合施設を作ってしまうのかと私も思っていますので、この地域構想を阿佐谷という地域がどうしたいのかということ踏まえて、本当はもう少し議論をした方がいいのではと思います。</p>
委員	<p>一保護者として、子どもの安全性ということ、学校にいる間の子どもの動線や、他の機関が入ってきたところでの、学校との住み分けがどうなるのか。また、先ほど、校庭がとても狭いというお声もありましたが、やはり運動会・体育の授業は思いっきり直線を走らせてあげたいということが、保護者としては、本当に切に思っております。</p> <p>また、ちょっと立場を変えた見方をしますと、私もPTAに関わりまして、3年間の間、全国から、海外からもたくさんの視察の方がお見えになりました。そんな中で、平成24年までの区の教育の方針、教育ビジョンが出ておりますが、そのビジョンを達成するために、これは杉並第一小学校の子どもたちだけではなく、ある意味、杉並区の教育のランドマークとなるような、杉並区の教育の基本方針が果たせるようなそういった建物になると。一区民としては、子どもが今年いっぱい卒業してしましますが、私も子どもも、杉並第一小学校から離れた時も学びの場になるような、そんな場所になるといいなと思っております。以上です。</p>
委員	<p>先ほど、学校の成り立ちと地域との関係を具体的に聞いて、非常に密度濃く地域と学校が結びついているというお話を伺って、大変感銘を受けました。これまでやってこられた実績は、今後も延ばすべきではないかと思っています。</p> <p>私の立場は、都市計画、まちづくりの立場です。どなたかおっしゃったように、学校というものをどう考えるかということなのですが、私の中では、どこ</p>

かで言葉がありました。道路や公園、あるいは水道や下水道などと同じようにインフラ施設だと、日常生活の中で、子どもたちが育っていくという意味では欠かせない空間であって、そこでいろんな事を学び、街の中に溶け込んでいくというための重要な施設であって、これをどう作るかというのが、今回の大きな命題であると思います。

その中で、私の立場から申し上げますと、まちづくりとしてどう考えるかということはまさにそのとおりでして、この立地が阿佐ヶ谷駅の近くにある。それから、中杉通りに面している。北には神明宮もある。裏には大きなお屋敷の家のお庭があって緑がある。そして、病院も近くにある。それから商店街も密接してるという意味合いからすると、非常に都市的な中にある学校であると。通常の住宅地にある学校とはやはり性格も異なるのではないかと思っています。その中で、この公共施設、インフラである小学校をどう作り変えるかということで、まさに皆さん感じておられるように、事業面としてのコストの問題、コストは、我々、まちづくりで将来のことを考える上でも非常に重要な要素です。特に、区が公共施設の複合化ということで、公共施設の維持管理費を削減しなくてはならないという中に、この問題も入ってくると考えると、いかに安くではないのですが、いかに効率的にいい学校、新しい公共空間をどう作れるだろうかということに、皆で知恵を出さなくてはいけないなと思っています。

もう一つは、複合化の問題ですが、私は、基本的には、複合化はいいことだという立場でいます。というのは、先ほど申しあげたインフラ施設という捉え方なんです。今までの都市行政施設の中で、道路は車主体、公園はみんなが遊ぶ場所というように、非常に限定的に捉えられた時代が戦後ずっとありました。ところが、今のまちづくりの中では、道路の中では車だけじゃないんだよと、むしろ歩行者の方が重要なんだということを、国の道路局などは正面きって政策の中心に置いています。ですので、道路の内容も車から人へ、公園も、静かな場所も当然いるのですが、その中でもコンサートもやりたい、食事もしたい、バーベキューもやりたいということで、今までの規制の中では到底出来ないようなことを盛り込むようになってきた。これをまちづくりの中で、一緒にやろうという時代になりつつありますので、この複合化というテーマを、この学校建設の中でどう考えるかということで、私がとりあえず、自分のテーマとして捉えたのは、学校のオープン化です。

オープン化という中でも2つあるような気がしてまして、一つは、阿佐谷地域区民センターや産業商工会館の集会機能をどう学校の役割の中に組み込むことが出来るか、それも一つのオープン化だと思います。それと、皆さんの指摘でありました校庭の狭さ、学校が 5,400 m²しかないから大変狭いんですね。非常に存在感のある体育館と存在感のあるプールでもって、土地を占められていますから、これは建築技術的に、これは他の学校でも建物の上に入れたり、建物に組み込んだりしていますので、先ほど容積の話がありましたが、容積率の中で解決できる話だろうと思います。校庭面積をとって、それで校舎を建てるという中で、オープン化の要素をどう入れるだろうかということになる

	<p>と思います。</p> <p>先ほど、地域と学校が非常に密な関係ということ初めて聞いたのですが、僕は、何回か杉並第一小学校の周りを歩きましたが、地域との結び付きというのは、外見的には全く感じられないんですね。つまり、むしろ、地域に対して、学校は閉ざしている関係にある。外からどう見えるだろうか、あるいは学校の中から外がどう見えるだろうかという見る見られる関係を今後どう作っていかうだろうかということも、空間のオープン化ではないかと思っていますので、こんな観点から私も考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>2点、考えたことを申し上げたいと思います。</p> <p>一つ目は、今現在、全国的に、老朽化や統廃合のタイミング等から、公立小中学校の建て替えが進んでいますが、この杉並第一小学校では、学校と地域社会が非常に密に連携している学区だと理解しています。長く住まわれている方々や卒業生も多く、地域の人たちが学校子どもたちを見守る体制ができています。ですので、会議の最初から複合化ありきで話し合うのではなく、最初は、学校の将来像についてじっくり話し合うことが必要かと思えますし、それができる、すべき地域だと思います。</p> <p>また、現時点の案ですと、阿佐谷地域区民センターと産業商工会館の2施設を複合するとしていますが、複合せず単独で建て替える可能性から、他にも複合した方がよい施設を含めた複合案まで、考えるべきかもしれません。児童館が近接していますが、これも全国的に複合事例が多いものの一つです。複合化が始まった1980、90年代と異なり、現在は、福祉系・産業系・教育系の施設複合に関する行政の壁は無くなっている時代なので、数十年後の地区の将来像を見据え、小学校を中心に何をどのように複合すべきか、というコンセプトを最初に持つことは非常に重要かと思えます。</p> <p>二つ目は、全国で複合事例はかなり増えてきている状況にあります。保育園や児童館、市民センターや公民館、図書館、特別養護老人ホームやデイケアセンターは一般的になりましたが、パン屋さん、庁舎等もあり、そのうち、地域のレストランや居酒屋、というものもでてくるかもしれません。</p> <p>事例が多くなったおかげで、複合計画や運営計画において、苦労や工夫、課題と解決策、失敗事例からの改善策等、資料はたくさん蓄積されてきています。学校と地域社会が密に連携しているこの地域では、新しい学校となれば担い手はたくさんいると思いますので、実際の計画の段階になれば、それほど揉めず悩まず進むのではないかという感触を持ちました。</p> <p>従って、大切なのは、新しい学校づくりのコンセプトであり、最初にじっくり議論した方がよいという印象を受けました。</p>
<p>進行役</p>	<p>ありがとうございました。短い時間でご協力ありがとうございました。</p> <p>初回ですので、全員からご意見いただきましたけれども、事務局の方で、一度受けていただいて、総括の一言をいただくとありがたいと思います。</p>

<p>学校整備担当 部長</p>	<p>皆様のご意見、幅広く、確かに一人一人のご意見を聞くとごもつともだなと感じました。区役所の方も、学校の改築に合わせて、区長部局も施設を入れればいいのだと簡単に考えたわけではございません。2つ理由がございまして、一つは、区の施設は600近くあるのですが、ほとんどが老朽化を迎えていて、同時期の改築の計画となります。その時に、計画的にやらなくてはならないので、お金を平準化しなくてはならないということが一つあります。その中で、今回の阿佐谷地域区民センターと産業商工会館を複合化するというのは、こちらの区長部局の施設が老朽しています。耐震補強したばかりの小学校でまだ使えるのではないかとということも十分に分かりますけれど、この機会に、阿佐谷地域区民センターと産業商工会館のあり方を検討することがあります。</p> <p>もう一つは、ここまで地域の方や学校支援本部が協働して運営しているのはすごいなと思っています。だからこそ、計画を練る時に、これから喧々諤々が始まるんでしょうけれども、区側も、教育委員会だ、区長部局だという縦割りの話ではなくて、頭を柔らかくして、この横のメンバーが腹を割って皆様のご意見をどう生かせるか考えないと、今日の発言を区役所が受け取って明確にコンセプトを示すということが出来なくなる。本当に、腹を据えて区も取り組まなければならない、そのように、今皆様のご意見を聞いて感じました。</p> <p>それから、地域と学校という課題があります。杉並第一小学校が杉並区内で、高井戸小学校を除くと、これほど駅の近傍にある学校はございません。阿佐谷地域も、前々から言われているとおり、災害時に危険な地域であり、また商業の活性化についてもやや停滞している状況もあります。</p> <p>学校もありますが阿佐谷地域全体をどうするのかと、将来50年後、100年後見た時にどうするのかということも、本当に大切な視点です。それから、近隣の皆さんのまちづくりの話も入ってきています。その動きをどうするのかという点、それと一緒に一緒に建てる建替は出来ないとしても、将来まちづくり上、決めておくルールというものは出てくると思います。そのルールをお互いわきまえて、将来、阿佐ヶ谷駅前がよりよくなるようなルールづくりを地域の皆さんと区が都市計画の視点から考えなくてはならないと感じました。</p>
<p>進行役</p>	<p>ありがとうございました。それでは、次第の最後となりますが、事務局からの連絡事項についてお願いします。</p>
<p>学校整備課長</p>	<p>委員の皆さんと事務局以外に、今回、基本構想・基本計画をまとめるにあたり、設計事務所に支援業務に入ってもらっていますので、紹介をさせていただきます。本日も同席いただいておりますが、(株)佐藤総合計画です。</p>
<p>教育施設計画 推進担当係長</p>	<p>次回の懇談会の日程調整をさせていただきます。候補日、時間帯を申し上げますので、恐れ入りますがご都合が悪い方は手を挙げていただけますでしょうか。</p> <p>(次回の懇談会の日程調整)</p> <p>ありがとうございました。それでは、次回第2回の懇談会は9月2日(水)午後3時から開催させていただきます。</p> <p>また、本日の懇談会会議録につきましては、次回開催通知と合わせて送付さ</p>

	させていただきますので、内容のご確認をお願いできればと思います。
進行役	それでは、これで第1回懇談会を終了いたします。皆様、本日はありがとうございました。